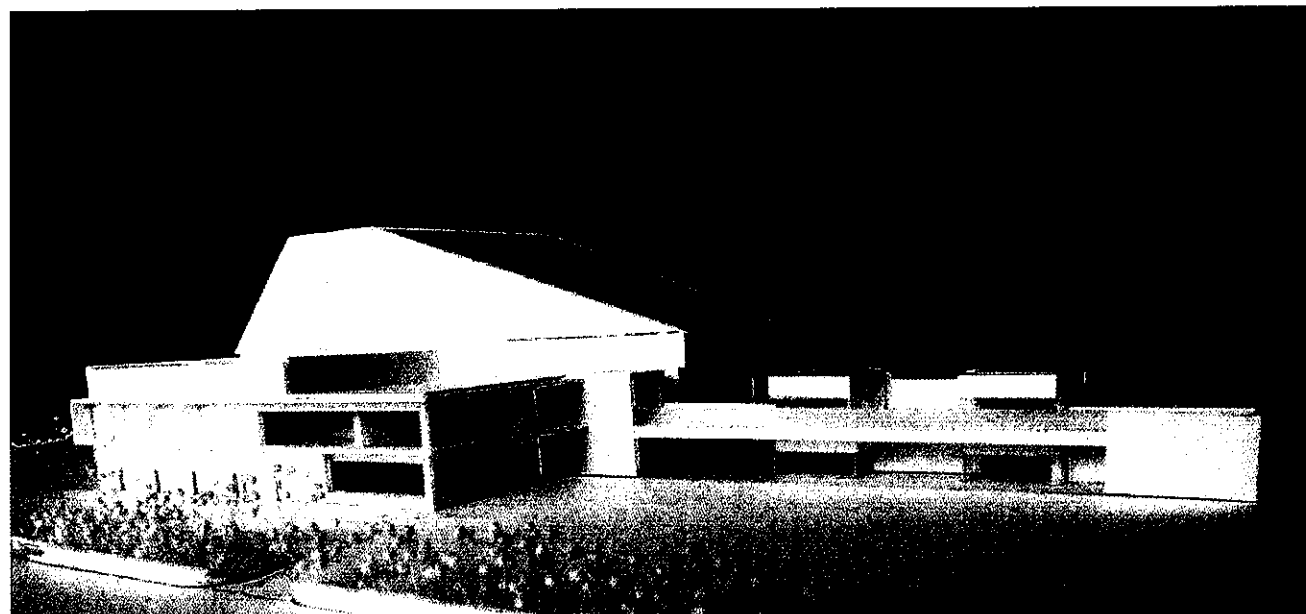


■基本理念

相(ともに)生きる市民がつどい文化と絆を築くまちづくりのステージ



外観イメージパース

■基本方針

官民協働による5つのキーワードの実践により基本理念実現を目指す施設とします。

- みる・きく 文化芸術の鑑賞、趣味・教養の講演・講座の受講
- つくる 地域の文化芸術を創造、発信
- そだてる 市民の文化活動の支援、子どもの創造性や豊かな感性の醸成
- あつまる 市民が気軽に立ち寄り、交流し賑わう空間の創出
- つなぐ 文化芸術を媒介とした新たなひとのつながりと地域社会づくり

■施設の基本コンセプト

- ◎ 世代と地域を超えて交流し、絆が生まれる施設
- ◎ 地域の潜在資源を掘り起こし、未来に向けて地域と文化をつなぐ施設
- ◎ 「交流」「育成」「感動」を通して文化芸術を醸成する施設
 - 「交流」のステージ：市民が集まり、文化芸術を媒介として交流する
 - 「育成」のステージ：市民が学び合い成長する
 - 「感動」のステージ：市民が感動し、こころ豊かになる

■設計の考え方

◎ 多機能施設という特色を活かした建築設計

ホール空間、創造交流空間、屋外デッキという3つの空間を有機的に配置し、回遊性を持たせながら、「観る」「聴く」「楽しむ」「話す」という多目的な活用に応えることができる公共施設を目指します。

◎ 景観に配慮した建築設計

建設敷地がもともと漁港であったことや海とともにあった市の歩みに着目した、新しい地域のシンボルとなる建物とします。

◎ 地域の活性化につながる建築設計

地域の賑わいを創出するため、周辺施設との連携も視野に入れた施設とします。

◎ ユニバーサルデザインに配慮した建築設計

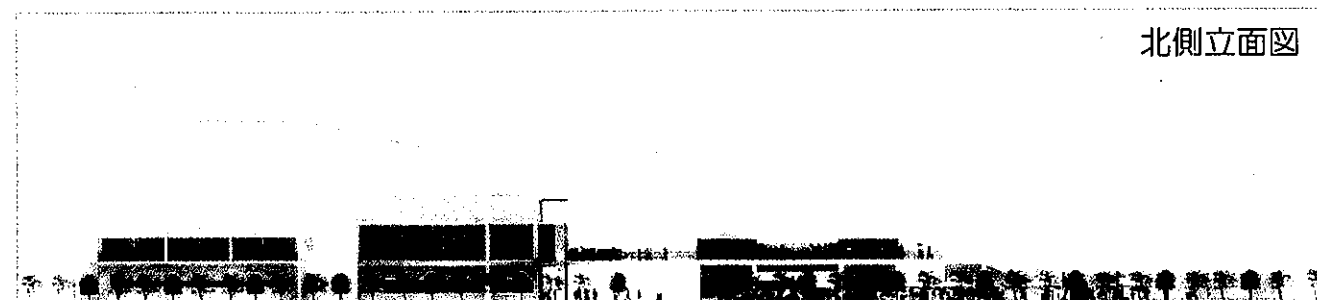
建物内外を問わず高低差の解消を図り、ゆとりのある廊下幅を確保し、分かりやすい空間構成等、年齢や障害の有無などにかかわらず使いやすいデザインに配慮した施設とします。

◎ 安全・安心を確保する建築設計

地盤のかさ上げや建物自体の防潮対策等を図り、災害から施設と利用者を守るための機能を確保する建築設計とします。

◎ エネルギーの消費と活用に配慮した建築設計

照明エネルギーの削減、雨水利用、太陽光パネルの設置など、省エネに着目した施設とします。



北側立面図